

第2分科会

「私たちの学校経営参画」



提案者 安芸太田町立安芸太田中学校 藤原 真紀
安芸太田町立加計中学校 今崎 鉄也
司会者 安芸太田町立筒賀小学校 園田 稔子
安芸太田町立戸河内小学校 佐々木梨絵
記録者 安芸太田町立上殿小学校 美之口隆子
助言者 安芸太田町教育委員会
教育長 二見 吉康
分科会責任者
安芸太田町立加計小学校 吉村 佳江
(参加人数 68名)

提案の概要

安芸太田町では将来的展望のある教育環境整備を目的とした「学校適正配置」に取り組み「学校統合」が進められている。その様な中で近年行われた学校統合及び校舎新築等において、組織の一員として事務職員がどう係わり何に取り組んだのかを実際の資料も交え報告した。

また、これらの成果と課題から見えてくる事務職員としての「学校経営参画」のあり方について提案した。

討議の内容

討議の柱に「事務の専門性を生かすって?」「教職員とどうかかわる?」の二つを設定した。協議は12グループによるワールドカフェ方式で行い、最後にキーワードとなる言葉をグループごとに発表してもらった。

- 職員室から聞こえる挨拶と笑い声（日常的なコミュニケーションが大切）
- 本気のコミュニケーション（相互信頼が大切）
- 根拠を含め、正しく制度を伝える。（普段の会話を通じてのコミュニケーション）
- 統合に絞ったキーワードとして情報の共有（互いに確認し連携を図る。）
- 情報の共有（職員や環境などの状況把握をした上で情報発信する。）
- 雑談が大切（共通の話題から情報収集を図り情報発信する。最新で正しい根拠文書による発信）
- コミュニケーション・教室ツアー（環境や状況の把握）
- 雑談が大切（情報共有が図り易いように動く。コミュニケーションが取り易い関係を作る。）
- 根拠・コミュニケーション（根拠を示した揺るがない姿勢とコミュニケーションを上手く保つ柔軟性が求められる。）
- パイプ役（先生と管理職、先生・管理職と保護者、先生・管理職と業者等）
- 自分達から発信（コミュニケーションを事務より図り状況把握を行う。）
- 雑談が大切（職員や子ども達との会話から状況把握を行う。）

まとめ

(助言者 安芸太田町教育委員会 二見吉康教育長より)

学校事務職員は本来の学校事務として専門的知識を持ち学校経営の一役を担う立場で仕事をしていていただきたい。

チーム学校として教員が子どもと向き合う時間を確保するために、今の働き方を見直してみることが必要とされている中、討議のキーワードにも挙がっていた「雑談」の中から教職員から困っていることや必要なことを探ろう・引き出そうとする姿勢や、「教室ツアー」として教育環境を自ら確かめ状況把握に努めることはとても大切なことであり、そういった日常であって欲しい。教職員からの本気で投げ掛けられたことを本気で受け止め応える「本気のコミュニケーション」が最終的に良い関係を築くことになるはずである。

またコミュニケーションとは、ただ喋ることだけではなく、自分の言葉を使って説明出来る力こそが必要となる。簡潔明瞭に順序立てて相手が理解し易いよう話せる。そういった言葉の力は、「根拠」説明や様々な提案の場において身に付けておかなければいけない。

来年度より小学校では新しい学習指導要領が本格的にスタートする。これからの教育を知るためには、学校事務職員も学習指導要領の内容を把握し教育課程について学ぶ必要がある。教育の進む方向や教育環境の整備、効率性を図るためには必要不可欠となってくるICT機器についても自分で調べ進言し、備品要求等においても根拠を持った判断が出来る事務職員が求められる。

これから訪れる「Society5.0」の超スマート社会では、事務系の仕事が減少すると言われている。教育に深く関わる職員として学校事務職員が必要であることを示していかなければならないという危機感を持ち情報収集をする必要がある。

「企画会等の参加」には経験年数は無関係である。それぞれ違う職務内容の職員の中で、学校事務職員の仕事として専門的知識を持った立場で方向性を持っていることが重要となる。

そして、学校の方向性を定めていく経営参画をしていくという自覚と誇りを持ち、超スマート社会での学校事務職員の立ち位置を確立していってほしい。

また、「働き方改革」を進めるためにも、根拠に基づいたデータを示すことが期待されている。効率性にも繋がる事務職員としての提案を是非とも挙げてほしい。